

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572505709		
法人名	社会福祉法人 中央会		
事業所名	安心サポート矢島		
所在地	秋田県由利本荘市矢島町城内字八森下481-1		
自己評価作成日	平成27年8月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成27年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の移り変わりを大切に、感じていただけるよう心がけております。食事にも地元の旬な食材や自分達の畑で採れた野菜を取り入れ、風習や行事等でも感じていただけるようにしております。また、その方の歩んでこられた生活や関係性を大事にし、今までの生活スタイルが続けられるよう心がけております。共に楽しみながら、笑顔の耐えない毎日を送っていただきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の特別養護老人ホーム・短期入所生活介護事業所が隣接し、行事や研修など合同で実施することが多く、協力体制が構築されています。地域の一人として年々交流の場が広がり、この時期に開催される行事「由利高原鉄道のかかし列車」に出品する大きなかかし(又吉直樹)が完成していました。「今日は天気も良いし、どごがさ行かねが？」と利用者からの一言で出かけることもあります。職員一人ひとりの意見・提案を大切に実践に繋げています。災害時に避難することを習慣づける為に毎月訓練が実施されています。調査当日、利用者と職員が一緒に歌っている大きな声がホール内に響いていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	これまで参加されてきた行事や地域との関わりを継続し、その方らしく生活できるように「自分らしく生き生きと いつまでも お元気で」の理念を共有し支援している。	法人の運営方針を基に職員全員で年度ごとの目標「方針」を掲げて実践、毎月のグループホーム会議で確認し合いながらケアに繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や文化祭・祭典等に積極的に参加し、地域の方々との交流の幅も広がってきている。	多くの行事や外出などで交流を深めています。事業所のノウハウを地域に発信して、相互関係が構築されるように努力されています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の方々より、GHというものを理解していただけるようになり、相談等をされる事が増え、必要な支援が受けられるよう、働きかけしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	回を重ねることにより、委員の方々からも率直な意見やアドバイスをいただけるようになり、サービスの向上に活用している。	委員は会議の目的をパンフレットなどを通して理解されており、職員も交代で出席し、議事録や回覧で共有しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やケア会議に出席し、事業所の実情を理解していただくと共に、地域の行事や情報提供を受け、アドバイスや連携をとりながら、取り組んでいる。	将来予想される困難事例や制度改正に伴う疑問など話しながら、事業所の実態を担当者によく知ってもらえるよう努力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意識をOJT等を通して、全職員が正しく理解できるようになっている。身体拘束のないケアに取り組んでいる。	利用者個々の心身両面の変化を把握しながら、家族に伝え、必要に応じて医療機関との連携をとりながら安全を確保しつつ、自由な暮らしが出来るように支援されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、OJT等の研修を通して、虐待について全職員が正しく理解できており、職員同士が気づき・声を出し、注意しあえる関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が正しく理解できるように努めている。GH会議にて、活用できる方などについて、検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族への説明の際には、疑問点を尋ねながら進め、確認しながら行うようにしている。また、いつでも説明できる事を伝え、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に意見や要望を伺うと共に、玄関へ意見箱を設置しております。その結果を運営推進会議や家族へ伝え、また、職員間で話し合い、反映させております。	面会や電話時にはまず世間話をしながら、徐々に意見や要望を話していただけるような雰囲気づくりに努め、些細なことでも親身になって聞くようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議だけでなく、随時、職員の意見や提案を聞き、反映しております。また、担当者が中心となり、意見交換の場を設けている。	全職員が楽しく・働きやすい環境づくりに努め、「全員で運営する」という気持ちで取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議で知識を深めると共に、向上心をもって、働けるように努めている。職員個々の努力や具体的な実績(資格等)について、情報提供を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修へ参加する機会を設けている。また、事業所外の研修では、復命書及び伝達講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会へ参加し、情報交換及び交流の機会を作っている。また、その上で、横につながりもでき、お互いの質の向上を目指し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至る前に、ご本人やご家族、それまで関わりのあった方々から話を伺い、できるだけ、見学していただくようにしている。また、不安な事には、よく話を伺い、少しでも不安を減らし、混乱のないように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至る前にご家族の思いをできる限り伺い、見学していただくことで、具体的な思いにつなげるようにしている。また、気軽に連絡し、相談できる事を説明している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活や行事において、できる事はお願いし、教えていただいている。また、その事で、一緒に楽しんで行う事ができている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には毎月近況報告や写真、GHの広報を送り、ご本人様の状態を伝えている。また、一緒に行事に参加していただけるように努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々との関わりを続けていただけるよう努めている。また、行きつけの美容院や床屋などの送迎も行い、良好な関係が続くよう努めている。	親戚や友人などの家に外泊したり、面会時には一緒に写真を撮ったりして、関係が継続できるように積極的に支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活やレクリエーションの中で、一緒に行う事で、孤立しないよう努めている。また、声かけを行ったり、職員が間に入り、利用者同士が関わりあえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった際は、ご本人が安全で安心して生活できるよう、情報提供を行い、必要に応じて面会の機会を設ける等、次に繋がるような支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様やご本人様との会話の中から得た生活歴や人柄を理解・把握し、一人ひとりの思いや希望を大切にしている。また、困難な場合は、ご本人の視点に立ち、希望に少しでも近づけるよう努めております。	日々の関わりを通じて、本人の希望や課題などをカンファレンスで話し合い、ケアに繋げています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から伺ったり、日々の会話から得た事柄を大切にしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を把握し、その方の得意なことや好きなことを継続できるように努めている。また、日常的な手伝いも、その方の状況に合わせて行っていただき、達成感にもつなげている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様とは、面会時や行事の際、できる限りの情報交換を行い、その方の状況に応じた、介護計画になるようにしている。また、GH会議にて情報交換を行い、職員の意見も反映するようにしている。	家族・本人を始め関係者の意見を基にした介護計画が作成され、毎月担当がモニタリングを実施、カンファレンスで確認しサービスの向上に繋げています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、それに伴う気づき等の情報の共有をはかり、お互いに、話あう機会を設け、実践や見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの状況を把握し、必要に応じて協力を求め、豊かで楽しい生活に繋がるようにしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からの馴染みのかかりつけ医を継続して受診している。緊急時は主治医へ連絡し、協力していただける体勢がとれている。また、週1回協力医院の回診も行っている。	主に職員が通院介助をおこない日常の状況を詳細に伝え、受診結果は家族に報告、職員もミーティングや記録で共有しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医院の看護師へ気軽に報告、相談できる体勢にあり、協力を得ている。また、併設の看護師にも協力してもらえ体勢をとっている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、病院関係者との必要な情報交換を行っている。また、退院がスムーズにできるよう、情報提供をお願いし、相談している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の対応能力について、入所時及び必要時に説明を行っている。また、状況の変化の度に確認し、主治医に相談すると共に、主治医から説明していただける体勢をとっている。その上で、方針を決めるようにしている。	家族の理解と同意を得ながら主治医と連携し、事業所の方針や終末ケアの在り方を共有認識しながら取り組まれています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い知識の習得に努めている。外部研修に参加した際は、GH会議等で、伝達講習を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、自主的な、避難訓練を行い、職員、ご利用者共に、安全かつスムーズに避難することを身に付けられるようにしている。消防による避難訓練や炊き出し訓練を行い、併設事業所や近隣の企業や町内に協力いただけるようお願いしている。	避難の方法・経路・場所の確保が繰り返し訓練されています。また 運営推進会議を通じて地域住民の協力も得られるように努力されています。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについて、OJT等の研修で職員が正しく理解しており、その方にあった、言葉かけや対応を行うように心がけ、十分に配慮している。		馴れ合いによる言動や行動は随時確認し合い、会議などで話し合いながら支援されています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や行動、会話の中から思いや希望を表された時には、自己決定できるように支援しております。		/	
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人、これまで生活されてきたペースを大切にしている。食事や一日の流れを、ご本人の希望に沿って、生活できるようにしている。			
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい服装・髪型を大切に、行事や外出の際には、化粧をしたりしている。長年行き慣れた理美容院へ行き、昔からのおしゃれを楽しめるようにしている。			
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れた献立作りを心がけ、苦手な食べ物がある場合は、代替を準備している。職員も一緒に食事を行い、同時に会話も楽しんでいる。また、食材の下処理や昔行った作業も取り入れて準備も一緒に、取り組んでいる。			
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が確認し、バランスの取れた食事になるように努めている。一度に食べる量が少ない方には、間食や好みの食材・水分を多めに盛り付ける等している。食事量が少ない場合は、主治医に相談し対応している。		/	
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じて、毎食後、その方に必要な介助を行っている。また、個人で、定期的に歯科医を受診する方の支援も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、一人ひとりの排泄パターンを把握し、自分のペースで排泄できるよう支援している。	訴えることが困難でも必ずサインがあるので見逃さないように支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、テレビ体操や手足の体操を行っている。また、水分摂取量や食物繊維の多い食材を取り入れた献立作成に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、健康状態を確認しながら、一人ひとりの希望にあわせて対応している。また、一人での入浴を希望される場合は、希望に沿って対応している。	拒否される方については、原因を観察しながら週2～3回は入浴出来るように支援されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に生活できるように、運動やレク。作業を行うように努めている。また、職員で話あい、一人ひとりの状態や生活歴を考えながら、安眠できるように検討も行っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の内容がわかるようにしている。その都度、チェックし、間違いのないよう、また、飲み忘れのないよう心がけている。また、主治医への状態報告も行い、指示を受けている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族より頂いた情報をもとに、その方に合った役割や楽しみごとで、気分転換をしていただけるよう努めている。また、その方のできる事を分担して行っていただけるようにしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を伺いながら、買物や散歩に出かけている。また、家族や地域の方と一緒に出かけられることができるよう協力している。近くの直売所の協力も得ている。	事業所周辺の散歩を始め、利用者の声(どごがさががねが?)を尊重しながら外出支援に取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族と相談し、その方の状態や希望に沿って管理している。また、買物や外食に行った際は、ご本人に支払いをしていただくよう支援している。ご本人持ちの現金は担当が定期的と一緒に確認を行っている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人持ちの電話で自由にやり取りをされている方もおり、希望に応じて対応している。ご家族と手紙のやり取りをしたり、電話を利用できるよう常に心がけ、本人が困難な場合は職員がお手伝いしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や玄関には植物や花を飾り、家庭的な雰囲気作りを心がけている。廊下にはテーブルを椅子を準備し、面会時や一人になりたい時にも使用しております。自然の明るさや季節感に配慮し、居心地の良い空間作りに努めている。	事業所内でも一人ひとりがごく自然に、思い思いの場所で過ごせるような空間作りが工夫されています。また カレンダーなどは大きな文字で目線の位置に掲示されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファがあり、廊下にはテーブルと椅子を置き、少人数でくつろげるスペースを作っている。玄関にはベンチを設置し自由に利用していただけるようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力により、ご本人が自宅で使用していた物や好みの物をお持ちいただくようお願いしている。	家具類や小物など本人の希望に沿った配置となっており、一人ひとりの生活スペースとなっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態や身体機能に応じて、必要で安全な物を使用していただいている。お風呂場や廊下には手すりを取り付け、安全に自立した生活が送れるよう努めている。また、トイレ等、分かりやすいよう工夫している。		